

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：ミャンマー連邦共和国

日付：2019年4月4日

報告書名：平成29年度 日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

平成29年度日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

2019年4月4日

| | |
|---------------------------|---|
| 事業名 | 「西バゴー地域の初等教育における読書推進事業」(第1年次) The Reading Promotion Project at primary schools in West Bago region. |
| 事業対象地 | ミャンマー連邦共和国、ヤンゴン地域ヤンゴン市、バゴー地域ピー県およびタヤワディ県 |
| 事業期間 | 事業期間：2018年1月12日～2019年1月11日 |
| 公的資金種別 | 平成29年度 日本NGO連携無償資金協力 |
| 総支出・返還金 | 総支出：29,050,167円(返還額：1,830,677円) |
| プロジェクト 目標および、その 達成度 | 本事業の上位目標は、「対象地域でSVAの推奨する学校図書活動の意義が認められる」ことである。指標に基づいた次の結果から、一年次の対象小学校において読書活動が普及していると判断できる。 事業開始前、図書コーナーがなかった各対象校で、図書コーナーを設置した後、対象校全生徒の平均42%が図書室を利用している(平均登録児童数138人/校のうち、平均58人/校/日が利用している)。 また、移動図書館サービスにおける貸出期間中の子どもの利用者数(申請書内では指標4-2として記載)は、事業実施前は0人だったところ、対象期間中の対象校全体で平均33%の児童が図書を利用している(平均登録者児童数が121人/校のうち、平均40人/校/日が利用している)。更に、94名の教員と親にインタビューの結果、91名が移動図書館活動を含む対象校の児童の態度に変化がみられると回答した。 |
| 実施内容概要 | (ア) <u>対象学校にて図書コーナーの設置・活用</u> 対象学校8校(4郡)を選定後、児童図書や家具等の備品調達を行い各校に図書室が設置された。対象校教員全43名に向けた図書館研修を4月末～5月頭にかけて実施した(3日間の研修を2回に分けての実施。1回目：4月30日～5月2日、2回目：5月4日～6日)。その後、本を配架し、6月より本格的な図書室の活用が開始された。7月以降は、対象全学校の図書室活用状況におけるモニタリングを毎月行った。 (イ) <u>学校図書コーナーミニマムパッケージの形成</u> 学校図書館ミニマムパッケージガイドラインを作成した。本ガイドラインは、ミニマムパッケージとは、学校で図書館を運営する意義、必要な要素(環境、資機材、人材、サービス内容と提供方法、資金)及びその後の運営方法などを弊会がまとめた概念と手法を指す。対象地域の教育局長また公共図書館職員及び対象校の校長含む教員に向け、本ガイドラインの説明会を9月末に開催した。印刷したガイドラインも参加者(全8対象学校)に配布した。 |

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：ミャンマー連邦共和国

日付：2019年4月4日

報告書名：平成29年度 日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

| | |
|----|---|
| | <p>(ウ) <u>児童図書の出版</u></p> <p>15名から構成される児童出版委員会を設立し、年間を通して同委員会内で協議を重ねながら児童図書の出版活動を行った。同委員会メンバーを対象に、日本から専門家を派遣して7月に6日間の児童図書出版研修をヤンゴンにて実施した。</p> <p>(エ) <u>公共図書館による対象学校における移動図書館活動の強化</u></p> <p>活動対象となる全252校の学校が選定され(18館/郡×14郡)、活動に必要な児童図書が各館につき306冊供与された。各地域の公共図書館より対象校へ移動図書館活動が毎月平均6回行われた。合わせて、同学校に児童図書貸出しサービスも提供された。また、公共図書館職員より対象校の教員へ、絵本の読み聞かせを中心とした図書活動に関する指導も行われた。公共図書館職員への能力強化研修は11月に行われた。研修の主な内容は、図書活動の充実化を図るため、ペープサートの作成・演習、アイスブレイクの演習、絵本の読み聞かせ実技演習、パネルシアターの新しいタイトルの製作・習得、手作り紙芝居の製作・演習を行った。また年間を通して四半期会議が行われ、活動の状況が共有・協議された。加えて、当会より通年モニタリングを行い、活動状況の確認、指導にあたった。</p> |
| 成果 | <p>成果1：対象学校にて図書コーナーが設置・活用された</p> <p>【指標1-1】</p> <p>対象校において図書コーナーが設置された学校数が増加している。 >8校全てに図書室が設置された。</p> <p>【指標1-2】</p> <p>対象校において児童図書の冊数が増加している。 1年目：0冊→350冊/校 > 合計627冊/校の児童図書が供与された(内訳：国内購入図書300冊、タイからの絵本165冊、日本からの絵本152冊、日本からの紙芝居3冊、児童図書出版研修時に作成した作品7冊)。読書推進活動開始後、計画時の想定を超え、対象校より多くの本へのニーズがあがったため、全体の収支バランスを調整しながら、より多くの冊数を学校に提供することができた。</p> <p>【指標1-3】</p> <p>対象年の図書館研修に参加した職員の図書館活動への理解が、研修終了後に向上している。 1年目：1年次対象校の研修会に参加した教職員の半数以上の理解が向上し、研修後の自主的な図書館活動の実施に繋がっている。 > 研修者全43名全員の研修前と比較して理解度が研修後に向上した。研修前の自己評価テストの結果は全体平均28%であり、研修終了後は、全体平均で96%と示され、研修による理解度が大きい向上した。研修会後の図書館活動においてもモニタリ</p> |

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：ミャンマー連邦共和国

日付：2019年4月4日

報告書名：平成29年度 日本 NGO 連携無償資金協力 完了報告書

ングの結果により研修内容が81%活用されていることが確認出来ている。

【指標1-4】

対象校において図書コーナー担当に配置された職員数が増加している。1年目：0人→3人/校

> 1年次終了時点で、対象校全体年間平均6人/校が担当として配置され、全校最低4人以上が配置された。背景として、全対象校の学校長が読書推進活動を深く理解し、彼らがリーダーシップをとり、積極的に読書推進活動の推進を行ったことがあげられる。

成果2：学校図書コーナーミニマムパッケージが形成された

【指標2-1】

学校図書コーナーミニマムパッケージのガイドラインが形成され、配布対象校数が増えている。

1年目：0校→8校

> ガイドラインが形成され、上記対象8校に配布された。

【指標2-2】

説明会に参加した郡教育局職員および学校長がミニマムパッケージの内容を理解している。

1年目：1年次対象校の説明会に参加した半数以上の郡教育職員および学校長がミニマムパッケージの内容を理解し、図書コーナー運営に携わっている。

> ミニマムパッケージガイドラインについての理解度は、参加者56名が受けた自己評価テストの結果、全体平均で93%と示された。その後の図書室運営への関わりにおいても、1年次終了時点の教育局4名（教育局長3名及び局長代行1名）と学校長7名（学校長8名中1名は、1年次終了後の交代となったため評価実施しなかった）へのアンケート調査にて全体平均94%と示された。また、郡教育職員および学校長からもそれぞれ積極的な関わりが見られた。

成果3：良質な児童図書が出版された

【指標3-1】

児童図書出版委員会メンバーの技能習得度が向上している。

1年目：参加者の3割以上が児童図書出版に必要な技能、知識を有している。

> 全参加者14名が受けた研修後の自己評価テストにおいて、研修項目（児童図書出版とは何か、それらが与える児童への意義、手作り紙芝居の製作プロセス等）につき全体平均91%という高い理解を示した。研修前の同テスト結果は全体平均37%であり、指標を達成した。また、研修中の成果作品を通して、児童図書出版に必要な基

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：ミャンマー連邦共和国

日付：2019年4月4日

報告書名：平成29年度 日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

準を満たしているかを専門家による評価を行い、4点×11問の44点満点中38.5点の平均値（88）%という結果となった。

【指標3-2】

出版された児童図書タイトル数及び対象校への配布冊数が増加している。

1年目：0タイトル→4タイトル、絵本0冊→15冊/校、紙芝居0冊→1冊/校

> 上記4タイトル（絵本2タイトル、紙芝居1タイトル、翻訳教育図書1タイトル）が出版され、各対象校（全8校）へ計31冊配布された（絵本及び教育図書は各7,000冊、紙芝居は210冊を自己資金にて出版印刷）。

成果4：公共図書館による対象学校における移動図書館活動が強化された

【指標4-1】

各公共図書館により各年の対象校にて、3回/年以上の移動図書館活動が実施されている。（※対象校は毎年新規で18校/館×14館の252校）

1年目：18校/館×14館（計：252校）にて3回/年以上の移動図書館活動が行われている。

> 各対象校に平均3回/年の実施がされた。全対象14公共図書館のうち、13公共図書館から各対象校へ全3回実施した。1対象図書館では、担当職員の体調不良により、対象校の開校期間中の各対象校への移動図書館の実施は2回となった。但し、同図書館は、夏季休暇中も対象校の生徒のいる地域で移動図書館活動を実施しており、回数は他の公共図書館と同じく、事業期間を通じて54回実施した。

【指標4-2】

公共図書館より移動図書館活動を通じて育成された教員の読書への理解度

1年目：対象教員の6割以上が読み聞かせ活動に必要な技能、知識を有している。

> 下記評価結果から、対象教員の6割以上が読み聞かせ活動に必要な技能、知識を有し、教員の理解度を得られている。

読書活動や図書活動が浸透していない対象校において、移動図書館活動時の公共図書館員からの年3回のインプットを通じ、教員がデータ測定時に下記の通り70%以上のスコアを出すことは、彼らが知識を有し、教員の理解を得られているといえる。また、全対象教員70名のうち7.7割である54名が70%以上のスコアを出しており、6割の指標を達成した。